

京都市介護保険専用調査票の記入要領

- 京都市介護認定給付事務センターから認定調査依頼を行った以降の状況について、調査すること。
- 調査票は3種類で1セット
- 京都市介護保険専用調査票を使用し、コピーは不可。
- 「概況調査」については、数字、文字、チェック記入が混在しているので、記載を特に注意すること。

1 マークシートによる記入項目について

良い例

【記入例】 

悪い例

【訂正する場合の記入例】

 (訂正後の再訂正はできません)

2 手書きによる記入について

(1) 数字による記入項目について

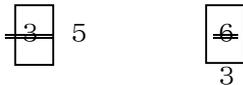
ア 数字はすべて算用数字で記入する。数字については、調査票2枚目の「記入のしかた」の文字見本が最もOCR読取りになじむ数字であり、見本どおり記載する。

(「1」「4」「7」は特に注意を要し、「1」「4」「7」と記載する。)

イ 数字は、空欄が2つ以上ある場合は右詰め^ウで記入する。(例「01」「095」)

ウ 訂正する場合は、訂正する箇所を二重線で抹消し、訂正する項目の欄外に正しい数字を記入する。

【訂正例】



(2) 文章等の記入項目について

ア 文章は、楷書体で記入する。

イ 訂正する場合は、訂正する箇所を二重線で抹消し、文章を続けて記入する。

<全項目共通事項、注意事項>

- 2枚目、3枚目については、裏面の調査対象者欄(氏名、性別、生年月日)を記入。
- 記入に当たっては、黒ボールペンのみを使用する(鉛筆、インク、消せるボールペンは不可)。
- 訂正部分への修正インク、修正テープは使用しない。
- 訂正部分への訂正印は使用しない。
- 破らない、汚さない、濡らさない、切断等を行わない。
- 専門用語や略語は使用せず、誰が読んでもわかりやすい表現で記載すること。
- 調査対象者が特定される「施設名」「病院名」「地名」「固有名詞」等は使用しないこと。

【例】「特養〇〇園に入所中」→「特養に入所中」

「△△病院で手術」→「病院で手術」

「京都花子と答えた」→「氏名を答えた」

◇下記の調査項目については、マークシート方式等によりチェックする。

—概況調査—

I 調査実施者

「調査場所」 … 調査場所は、「自宅内」又は「自宅外」をチェック。「自宅外」の場合は場所名を記入

自宅内	在宅、有料老人ホーム、サービス付高齢者向け住宅 等
自宅外	介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護医療院、一般病院、養護老人ホーム、障害者施設、その他（ショートステイ、小規模多機能型居宅介護等）

「事業者番号」 … 事業所番号は、京都府内の事業所の場合、頭2桁の26を加えた10桁。

「調査員番号」 … 調査員番号は右詰めで記入（番号は委託契約時に添付された京都市認定調査員登録書に記載された下2桁又は3桁の番号のみの記入で可）。

「調査員名」 … 調査員本人が署名又は記名（パソコン印字やはんこ等による記載）する。

II 調査対象者

「過去の認定」 … 「二回目以降」であれば、「前回認定年月日」「前回認定結果」を記入。

「前回認定結果」 … 「要支援1、2」「要介護1～5」の場合は、チェックのうえ、（ ）内に数字も記入。

「現住所」 … 居住地（自宅）の住所を記入し、病院・施設等の入院・入所者は、病院・施設等の住所と電話番号を記入。（※住民票と居住地が異なる場合は、居住地を記入。）

III 現在受けているサービス状況

* 「在宅利用」と「施設利用」について、それぞれの実態に応じてチェックのうえ、必要事項を記入。暫定ケアプランの場合も含む。何も利用していない場合は、Ⅲは記入不要。

「在宅利用」 … 在宅サービスを利用している場合は、「介護給付」又は「予防給付 総合事業」をチェックし、該当項目にサービス利用回数を記入。総合事業は（訪問型サービス）（通所型サービス）の該当項目に記入。無ければ記入不要。

「福祉用具貸与」は、調査日時点の利用品目数を、「特定福祉用具販売」は、過去6箇月の品目数を記入。「住宅改修」は、過去の実施が有の場合、「1」を記入。

上記以外のサービスは、認定調査を行った月のサービス利用回数を記入。原則として当月の予定を記入。なお、通常の利用状況と異なる場合は、認定調査を行った日の直近の月の実績を記入。

「市町村特別給付」は現時点では記入不要。

「介護保険給付外の在宅サービス」を利用している場合は、チェックし、その名称を記入。

「施設利用」 … 施設利用している場合は、「あり」をチェックし、現在利用している施設の種類（「介護老人福祉施設」～「その他の施設」のうち1つを選択。）をチェックのうえ、施設（病院）名、住所、電話番号を記入。

「特定施設入居者生活介護適用施設」とは、特定施設入居者生活介護適用の養護老人ホーム、軽費老人ホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅等に入所している場合をいう。

特定施設入居者生活介護適用ではない養護老人ホーム等を利用している場合は、「養護老人ホーム」「軽費老人ホーム」「有料老人ホーム」「サービス付き高齢者向け住宅」

「医療機関（療養）」とは、医療保険適用の療養病床に入院している場合をいう。

「医療機関（療養以外）」とは、医療保険適用の療養病床以外に入院している場合をいう。

「その他の施設」とは、「介護老人福祉施設」～「サービス付き高齢者向け住宅」に該当しない施設に入所している場合をいう。

【記入例】

利用施設	在宅利用の該当項目	施設利用の該当項目
認知症対応型共同生活介護適用施設（グループホーム）	認知症対応型共同生活介護（グループホーム）	認知症対応型共同生活介護適用施設（グループホーム）
特定施設入居者生活介護適用施設	特定施設入居者生活介護	特定施設入居者生活介護適用施設
特定施設入居者生活介護適用外施設	該当項目を選択	養護老人ホーム、軽費老人ホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅のいずれか
地域密着型介護老人福祉施設（地域密着型特別養護老人ホーム）	介護老人福祉施設入所者生活介護	介護老人福祉施設

<補足説明>

- 住宅改修
 - ・自費での住宅改修は、介護保険給付外の在宅サービスとなる。
- 福祉用具貸与・特定福祉用具販売
 - ・利用品目数を記入することとなっているので、同じ品目を複数貸与している場合は1品目として扱う。
 - ・福祉用具の購入については、介護保険給付は特定福祉用具販売欄に記入し、介護保険給付外は介護保険給付外の在宅サービス欄に記入。自費購入については該当しない。
- 回数の考え方
 - ・訪問介護で1日に複数回訪問する場合、1日の回数×日数を記入。

IV 調査対象者の家族状況

- 家族状況 独居 … 一人で生活している場合は「独居」を選択。
 同居（夫婦のみ） … 配偶者のみと同居している場合は「同居（夫婦のみ）」を選択。
 同居（その他） … 配偶者以外と同居している場合は「同居（その他）」の選択。

※家族状況のチェック欄の選択にあたっては、在宅の場合に家族と同居することとなるか否かの観点で選択する。そのため、施設入所者であっても、配偶者不在等により、在宅において家族と同居することが想定されていない場合は「独居」を選択する。

—基本調査— 「1身体機能・起居動作」～「7日常生活自立度」

- 該当項目にチェックする。
- 「複数選択可」の場合の選択個数は、該当項目がある場合、その項目数を記入。ただし、「1-1麻痺等の有無」「1-2拘縮の有無」が「無」の場合は、選択個数は「0」と記入し、「6過去14日間にうけた特別な医療」が「無」の場合は、選択個数は「00」と記入。

◇下記の調査項目については、文字、数字を記入する。

<概況調査—調査対象者の主訴、家族状況、居住環境、日常的に使用する機器・器械の有無等>

- 調査対象者の家族状況、調査対象者の居住環境、日常的に使用する機器・器械の有無等について、特記すべき事項を枠内に記入。なお、医療機関における病床の種別（精神病床等）や障害福祉サービス（グループホーム等）等、調査対象者の状況について、介護の必要性を判断する際に参考となる事項についても記入。
 ただし、置かれている環境等を根拠に二次判定での変更を行うことは認められておらず、あくまでも参考の状況として扱う。
- 前回作成時からの心身状態に関する事項は、更新・区分変更申請者についてのみ、必ず該当する項目にチェックする。

<基本調査—特記事項>

- 日頃から介護している家族等の介護者がいる在宅の調査対象者について、やむを得ず介護者不在で調査を行った場合は、特記事項の冒頭に記載する。→認定調査員テキストP7参照

【記載例】 調査実施日時の調整を行ったが、家族は就労のため同席は困難とのこと。家族に了承のうえ、やむを得ず介護者不在で調査を実施。

- 「認定調査員テキスト」において特記事項として記載を求められている箇所は記載する。
- 「() - ()」に基本調査番号等を記入。記載事項で、同一項目が2行以上にまたがる場合は、点線を実線で区切って記入。
- 基本調査の選択と特記事項の記載内容に矛盾がないか確認し、審査判定に必要な情報が提供できるよう、簡潔明瞭に記載する。
- 基本調査項目の選択肢にあるとおりの記載は原則不要（基本調査項目の選択だけでは表現できない情報を記載する）。

【例】 × (2) - (1) 家族が全介助。
↓
(2) - (1) 重度の寝たきりのため、車椅子などへの移乗が行われていない。じょくそう防止のために2時間おきに、介護者が体位交換の際にでん部を動かし、移乗動作を行っていることから「全介助」を選択する。

- 記載事項は「選択根拠」「手間」「頻度」の3つのポイントに留意しつつ簡潔明瞭に記入（ただし、枚数を制限するものではない）。

選択根拠	申請者の状態が認定調査の定義にうまく当てはまらない場合や、特別な事情がある場合は、基本調査項目を必要に応じて修正する（一次判定の修正）必要があることから、認定調査員が選択に迷った場合は、選択根拠を特記事項に明示する。
手間	介護の手間の判定で重視される情報源。状態ではなく、その状態によって発生している手間の内容を記載する。特に介助の方法に関する調査項目及びBPSD関連の項目で重要となる。
頻度	上記の介護の手間と頻度を参照することで、介護の全体量を理解することが可能になる。

- 特に、第2群・第4群については、できるだけ具体的に「介護の手間」及び「頻度」を記載する。
- 「介助されていない」「つかまらないで」できる」「ない」を選択した場合であっても、実際に介護の手間が発生している場合には、「介護の手間」及び「頻度」について具体的に記載する。

【記載例】 自分でトイレに行って排泄しており、通常は介助は行われていないが、週に3回ほどの頻度でトイレに間に合わずに失禁し、廊下が濡れており、廊下の掃除は家族が行っている。以上の状況ではあるものの、より頻回な状況に基づき、「介助されていない」を選択する。

- 特に、新規申請、区分変更申請は「できる」「ない」「介助されていない」の選択をした場合でも、聞き取った状況は特記事項に記載するようにする。
- 記載する内容が選択肢の選択基準に含まれていないことであっても、介護の手間に関する内容であれば、特記事項に記載する。

【記載例】 (1) - (10) 洗身行為自体は介助が行われていないため「介助されていない」を選択するが、洗身時の転倒防止のため、週に3回介護者が見守っている。
(2) - (2) 室内は自力で移動できる。外出行為に関しては定義に含まれないため、「介助されていない」を選択するが、週に2回、病院に通院する際は、長距離の歩行ができないため、介護者が必ず付き添い、車で送迎のうえ、手引き歩行している。
(5) - (1) 項目には該当しないが、帯状疱疹の後遺症のため、1日3回、軟膏を背中に塗布する介助が行われている。

- 「能力」で評価する調査項目及び有無で評価する調査項目の「麻痺等・拘縮」については、各項目が指定する確認動作を可能な限り実際に試行し、「実際に行ってもらった状況（確認できる・確認できない及びその状況）」「日頃の状況」「実際に行ってもらえなかった理由と状況」「福祉用具（補装具や介護用品等）や器具類を使用している状況」について、具体的内容や選択した根拠等を記載する。
- 麻痺等・拘縮の有無については、「その他あり」を選択した場合は部位や状況を記載する。
- 第6群の過去14日間にうけた特別な医療については、「実施頻度/継続性」、「実施者」、「当該医療行為を必要とする理由」を記載する。
- 第7群の障害高齢者の日常生活自立度は、簡潔に選択した根拠を記載する。
- 第7群の認知症高齢者の日常生活自立度については、選択した理由又は気づいた点を具体的に記載する。
- 特に、「認知症高齢者の日常生活自立度」がⅡ以上の場合で、第4群のBPSD関連項目等について実際に介護の手間が発生しているときは、特記事項に「介護の手間」及び「頻度」を記載する。

【記載例】(4)－(3)「死にたい」と毎日のように言う。感情が不安定になるほどではないため、選択は「ない」とするが、毎日のように家族が話を聞き、本人をなだめている。

- 「ときどきある」「ある」を選択した場合は必ず頻度を記載する。

【記載例】(4)－(9) 週1回ほど、1人で玄関から自宅の外に出してしまうため「ある」を選択する。
介護者は毎回のように探しに出ている。
(4)－(9) ほぼ毎日、1人で玄関から自宅の外に出してしまうため「ある」を選択する。
介護者は毎回のように探しに出ている。

- 「介助の方法」で評価する調査項目において、「介助されていない」状態や「実際に行われている介助」が「不適切」とであると判断する場合は、「実際の介助の状況」「不適切な状況と判断した事実」「適切な介助と判断した状況」を記載する。

【記載例】(2)－(6) 独居。本人によると、自分でトイレにて排便しているとのことだが、調査時にズボンに便が付いていたことを確認したため、不適切な状況にあると判断し、適切な介助の方法を選択する。ズボンの上げ下げの介助を行うことが適切と考え「一部介助」を選択する。

- “時間がかかる”や“不安定ながら”等、抽象的な表現を避け、どの程度時間がかかるのか、不安定な状態とはどのような状態か具体的に記載する。

【記載例】(2)－(10) 右片麻痺があり、上着を着るのに時間がかかる。
→ 右片麻痺があり、上着を着るのに10分以上かかっている。
(1)－(5) 背もたれにもたれて、不安定ながら座位保持できる。
→ 背もたれにもたれて座るが、上半身が左右に傾いてしまうためクッションで固定している。

- 「見守り等」を選択した場合、見守り等の状況や長時間を要する場合についてはその状況を記載する。
- 「一部介助」「全介助」を選択した場合は、実際の「介護の手間」の具体的な内容と頻度を記載する。

【「一部介助」の記載例】

- (2)－(4) 毎食、最初の数口は自分で摂取するが、すぐに食べなくなるため、残りは全て介助を行っている。
- (2)－(4) 毎食ほとんど自分で摂取するが、器の隅に残ったものについては、介助者がスプーンですくって食べさせている。

【「全介助」の記載例】

- (2)－(5) トイレで排尿しているが、全ての介助を行っているため「全介助」を選択する。強い介護抵抗があり、床に尿が飛び散るため、毎回、排尿後に掃除をしている。
- (2)－(5) オムツを使用しており、定時に交換を行っている。

記載例

※記入欄、罫線の範囲内に記入（はみだすと印刷されない）。

※文字は読みやすく、正確に記載する。

※特にパソコンを使用する場合は、変換ミスによる誤字や、文字が小さくなりすぎたり、印字の上に重ならないよう注意する。

<概況調査—認定調査者の主訴、家族状況、居住環境、日常的に使用する機器・器械の有無>

※ 前回作成時からの心身状態に関する事項（更新・区分変更申請者についてのみチェックしてください。）

変化なし ・ 悪化 ・ 改善 ・ 不明（又は未把握）

<基本調査—特記事項>

~~()-()~~ 調査実施日時の調整を行ったが、家族は就労のため同席は困難とのこと。家族に了承のうえ、
~~()-()~~ やむを得ず介護者不在で調査を実施。

()-()

()-()

()-()

()-()

()-()

()-()

()-()

()-()

()-()

()-()

()-()

()-()

()-()

()-()

()-()

()-()

()-()

()-()

()-()

()-()

()-()

()-()

()-()

()-()

()-()